

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

SER no.049; Cover, contents, and others

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/1738

Senri Ethnological
Reports

49

Research Writing in Japan
Cultural, Personal and Practical Perspectives

Edited by

Peter J. Matthews

Jun Akamine

National Museum of Ethnology
Osaka 2004

Senri Ethnological Reports

The Senri Ethnological Reports are published by the National Museum of Ethnology, Osaka, as an irregular series. Volumes include the edited proceedings of conferences sponsored by the museum, and single-author monographs on anthropological and ethnological themes. For information about previous issues see back page and the museum website ('Research: publications', Internet, www.idc.minpaku.ac.jp).

For enquiries about the series and to obtain copies of this volume, please contact:

Publications Office
National Museum of Ethnology
Senri Expo Park, Suita, Osaka, 565-8511, JAPAN
fax +81 6 6878-7503
email: hensyu@idc.minpaku.ac.jp

A limited number of free copies are available, for educational and research purposes. Copies may also be purchased from the Museum Bookshop (postal address as above, tel. +81 6 6876-3112, fax +81 6 6876-0875).

<i>General editor</i>	Makio Matsuzono
<i>Associate editors</i>	Yasuhiko Nagano Katsumi Tamura Yasuhiro Omori Shuzo Ishimori Tatsuhiko Fujii Yosio Sugimoto Fumiko Oshikawa

Senri Ethnological Reports

49

Research Writing in Japan

Cultural, Personal and Practical Perspectives

Edited by

Peter J. Matthews

Jun Akamine

National Museum of Ethnology, Osaka

2004

Published by the National Museum of Ethnology, Senri Expo Park, Suita City,
Osaka 565-8511, Japan.

© 2004 National Museum of Ethnology, Osaka

Publication Data

Research Writing in Japan: Cultural, Personal and Practical Perspectives/edited
by Peter J. Matthews and Jun Akamine. p. 214, 12 cm (Senri Ethnological
Reports No. 49).

Includes bibliographic references.

ISBN 4-901906-24-0, C3037, ISSN 1340-6787

1. Higher education - Research - Japan

378.0070952

2. Knowledge - Dissemination - Japan

001.20952

3. Anthropology - Verbal communication - Japan

302.2320952

Printed by Yubunsha Co., Ltd., Osaka, JAPAN

前 書 き

本書は、2003年3月15日・16日に国立民族学博物館で開催された「日本におけるリサーチ・ライティング—文化的、個人的、実践的な視点から—」に関する会議の成果の一部である。開催にあたり、わずか1、2ヶ月間の準備しかなかったにもかかわらず、多くの人が快く参加してくれたという事実こそが、このテーマに対する関心の高さを示していたのかもしれない。日本各地から20名が参加し、それ以外にも関西地域から10余名の参加があった。参加者は、営利出版、非営利出版、編集、翻訳、海外に拠点をおく語学サービス各社に勤務する者のほか、大学院生と研究者などであった。その多くは日本で働き、いずれかのかたちで研究論文の作成にかかわりをもつ外国人であったが、少なからぬ日本人学生や研究者、それ以外の立場の日本人の参加もあった。

このような多彩な背景をもつ人びとが集まったことをみて、本会議を緊急会議とうけとめる方がおられるかもしれない。たしかに、現在の日本の学術環境には、ある種の切迫感が存在するのも事実である。現在、国公立を問わず、学術機関はすべて人口構造の変化、経済的变化、政治的变化に直面しているが、そのほとんどは自分たちの手には負えない問題である。もちろん、この現状を率直にうけとめるとともに、道義上の責務としても、研究者たちは、みずからの研究成果をひろく伝達する方策を模索しなければならない。このことは、より多くの研究者が、出版物や電子メディア、講義などで、自分の研究成果を発表するということに、これまで以上の注意を払うようになることを予見していよう。

日本情報ネットワーク (<http://jin.jcic.or.jp/stat/stats/16EDU29.html>、インターネット、2003年12月5日)によると、2003年度には、総計702校の国公立大学が存在していた。くわえて、日本には、あまたの独立した研究機関および企業内研究機関も存在している。このように日本では、無数の異なる学問領域あるいは細分化された分野、組織で研究がおこなわれている。そして、ほとんどの研究結果は日本語で発表されているが、なかには英語やその他の言語が用いられることもある。その結果、研究論文の作成について、言語運用に関するきわめて多様な課題が生じることとなる。

たとえ研究の公開または一般利用が意図されていなくとも、研究結果が適切に文書化され、発表されるか否かは問題である。民間企業における研究費が大学や独立した研究機関の研究費より、はるかに高額であることを鑑みると、ことの重大さがあきらかとなるであろう。たとえば1998年には、民間企業の研究費は10兆8千億円であったが、これは国の研究費総額の67パーセントにあたり、総合大学、単科大学、独立研究機関のすべてが研究に費やした5兆3千億円(国の研究費総額の33パーセント)の2倍強である(文部科学省の科学に関する統計、www.mext.go.jp/、インターネット、2003年9月12日を参照のこと)。

本会議の主要な目的は、研究結果を伝えるためのもっとも重要な手段としての文書作成行為(リサーチ・ライティング)に焦点をあてることにあった。この一見当たり前に思われる問題関心は、日本では(諸外国においても、おそらく同様に)、いかに研究を向上させていくのか、との議論から落ちてきたように思われる。1990年代初頭以降、たしかに日本政府は、研究の評価方法の開発とともに、いかに研究したいの向上を図るかについて考察を続

けてきており、個人や組織の自己評価と第3者評価の新たなシステムも導入されつつある。その一環として、公開済みの研究成果の収集と普及をおこなうシステムの改良にも注意が払われてきた（文部科学省、白書データベース、www.mext.go.jp/、インターネット、2003年9月11日を参照のこと）。しかし、このような学術政策の概略報告には、リサーチ・ライティングの質に注目しているとみられる形跡はない。これは、たんに報告書から省略されただけであるかもしれないし、また政策担当者が高品質の研究であるならば自動的に良質な文章にしかがると推測し、自分たちは研究自体の品質管理にさえ関与すれば良いと考えているからかもしれない。しかし、学術論文のピンからキリまで熟知している者にとっては、良質な著述は非常に不明瞭で難解な研究テーマさえも読んで愉しいものにし、稚拙な著述は優れた研究さえも理解できないものにしてしまうことが明らかなのである。また、良い著述は研究の稚拙さのある程度隠すことができるが、これはここでわたしたちが議論したい目標ではない。もちろん、最終的には、良質の研究や著述のための責任は政策担当者ではなく研究者自身にある。

本書のなかで、読者は、日本における学術論文の執筆、編集、翻訳、出版といった各界の現状について、多くの実践的な助言をえることとなろう（赤嶺、Flint, Goel, 原・福野、小林、McCreery, Riggs and Murray, 大貝、武田、Weisburd）。また、調査・研究言語としての英語と日本語をいかに学術出版で用いるのかといった使用言語の役割と、その問題の歴史についての所見もえられるであろう（赤嶺、Bradford, Eades, 小林、小谷、武田、Temese, Yakai）。さらに、日本人研究者にとって、SWET（著述家・編集者・翻訳者協会）についてのRiggsとWilkinsonの論説は、日本で利用可能な専門的語学サービスの多様性に関する有益な手引きとなろう。

本書は、学界、評論、および科学について著述をおこなう人たちが直面している問題について、異なる見方を示す3篇の論説（第1部：Eades, Isherwood, Weisburd）を最初に掲載している。第2部では、さまざまな状況で、研究成果の執筆と出版に関わっている研究者個人の体験と個人的な見解が示される。第3部では、日本における専門的な語学サービス産業について、2名の新進気鋭な著者による論考につづけて、経験豊富な執筆者たちによる論文が紹介される。第4部は、2本の論説－リサーチ・ライティングの社会的文化的背景についての論考（Matthews）、および、文化要因がいかに研究論文の作成と翻訳に影響するか、日本の教育改革が将来的にこの国の研究活動にどのような影響を与えるのかに関してのより整然とした全体像の論考（Goodman）によって締めくくられる。本書は日本内外の読者を想定しており、各論文の表題と要約には日本語、英語を併用した。

「日本における研究論文の作成についての2003年会議」は、大学院生、研究者、出版社、語学サービスの専門家などの広範な参加をえ、研究論文の作成行為について、ひろく考察する日本初の機会となった。そして参加者たちの間で、この種の問題に関連する会議を、今後も継続的に開くことができれば有益である、との合意にいたった。それらの、一連の会議を通じて、初回となる本会議および本書で取り上げられていないテーマや言語問題について探求することが、可能になるはずである。なお、会議ウェブサイト（www.researchco-op.net/conference.htmlを参照）は、現在、2003年会議の公開記録および当会議におけるコミュニケーションのためのフォーラムを提供するために、また将来の会議についての問い合わせを

奨励するように整備されている。本書の編集者に電子メールや郵便で直接連絡をとることも可能である。

最後に、会議の開催および本書の取りまとめについて、励ましと御支援をいただいたことに対し、長野泰彦教授をはじめ国立民族学博物館の研究者の方がたに謝意を表したい。SWETのメンバーの方がたの参加とアドバイスに感謝している。また、Convention Linkage (大阪) が準備してくれた優秀な通訳、当会議のアシスタント諸氏 (宮崎純子、小川真智子、楊井伸子)、ならびに国立民族学博物館編集部のスタッフの方がたにも、謝意を表したい。また、わたしたち編集者は、本出版物の作成中に当方からの幾多の要請について、積極的に対応してくれた関係者すべてに感謝の意を表する次第である。

Peter J. Matthews · 赤嶺 淳



CONTENTS

Preface	
Peter J. Matthews and Jun Akamine	i
Part I: Research Writing in Context	
Local Research, Global Audiences: Linguistic Hegemony and Transnational Publishing in the Information Age	
J. S. Eades	3
Standards in Literature and Academic Writing (Comments on Literary and Academic Criticism in Japan)	
Christopher Isherwood	17
Research Writing in Japan Today and What We Can Do to Improve It	
Richard Weisburd	29
Part II: Writers and Writing - Personal Perspectives	
Perish, then Publish: What You Might Do If Tenure Eludes Your Grasp	
John McCreery	43
Tertiary Education in Japan: A Student's Personal Experiences	
Edna Temese	53
English as a Lingua Franca? Reflections of a Student	
Sachiko Kotani	59
Experiences of a Foreign Student in Japan	
Mathew Yakai	65
In Anticipation of Field Studies Education	
Jun Akamine	71
Research Writing at a University Museum	
Reiko Hara and Akiko Fukuno	83
My Career with Papers	
Yoshinari Kobayashi	93
Research Writing and Language Use: Facts and Fallacies in Academic and Business Contexts	
Takeyoshi Ohgai	103

Part III: The Language Services Industry

Learning on the Job: a Translator in Tokyo Richard Bradford	115
A Guide to Buying Translation Services Paul Flint	123
The Society of Writers, Editors, and Translators (SWET): Fostering Professionalism in English Writing in Japan Lynne Riggs and Keith Wilkinson (compilation)	129
Working with Words – Editing and Editage Abhishek Goel and Shreya Baliga	141
Publishing with Elsevier Toshiko Takeda	151
Toward a Handbook on English-language Publishing in Japan Lynne Riggs and Patricia Murray	157

Part IV: Review and Overview

Research Writing in Japan: the Bottleneck and Imperatives for a Conference Series Peter J. Matthews	179
Towards a Cultural Understanding of Research Writing, Translation and Editing Roger Goodman	193
Conference Schedule	205
Contributors and participants	210

Part I: Research Writing in Context

Part II: Writers and Writing - Personal Perspectives

Part III: The Language Services Industry

Part IV: Review and Overview

Conference Schedule

The present volume is largely based on presentations given at a two-day conference of the same name: 'Research Writing in Japan: Cultural, Personal, and Practical Perspectives' (15 –16th March, 2003, National Museum of Ethnology, Osaka). The original conference schedule and session themes are recorded below.

DAY 1

Opening remarks and welcome: Peter Matthews (National Museum of Ethnology)

Keynote speech: Jerry Eades (Ritsumeikan Asia Pacific University): "On Academic Modes of Production."

SESSION ONE: A Research Bottleneck?

So much to write about, but too little time to write? For many researchers, writing is the most time-consuming part of their research life. Writing is the bottle-neck between the doing and publication of research, yet how much of the research budget is allocated to this part of the process? How can peers, supervisors, editors, and translators help? How can researchers make better use of the writing services that are available? How can students and young researchers become good research writers?

Discussants: Abhishek Goel (Cactus Communications) and Pat Murray (Center for Intercultural Communication).

First: Reiko Hara and Akiko Fukuno (Hachiro Yuasa Memorial Museum, International Christian University) "Publishing activities at the Hachiro Yuasa Memorial Museum, ICU."

Second: Richard Weisburd (University of Tsukuba): "Research writing in Japan today and what we can do to improve it."

Third: Toshiko Takeda, with Michiel Kolman and Zeger Karssen (Elsevier Japan) "Editorial services at an international publisher, and interactions with Japanese researchers"

Fourth: Lynne E. Riggs (Translator and Editor, Center for Intercultural Communication, Tokyo, and Managing Editor, *Monumenta Nipponica*, and Representative, Society of Writers, Editors, and Translators): "The Need for Advanced Guidelines for Successful Publication."

SESSION TWO: Publish AND Perish?

The phrase "Publish or perish" is overused. Are there too many papers for too few readers? Research graduates in Japan today can no longer depend so much on personal connections to find work, so there is more pressure to publish. Publishing

quantity does not guarantee work or funding; nor does publishing quality. Hence the title, "Publish AND Perish?" For ethical reasons, priority should be given to writing as if readers matter, and more effort is needed to reach readers. Fewer papers and more readers might be a good aim.

Discussants: Richard Sadowsky (Society of Writers, Editors and Translators), and Keith Wilkinson (Japan Association of Translators).

First: Dr John McCreery (The Word Works) "Publish and Perish: Consider the Options"

Second: Christopher Isherwood (University of Tokyo): "Can standards in literature (novelistic writing) improve standards in academic writing? (Comments on literary and academic criticism)."

Third: Paul Flint (Japan Association of Translators) "The work of translators and the Japan Association of Translators."

DAY 2

SESSION THREE: Practical experiences in Japan and elsewhere.

How are editing, translation, and writing activities actually supported and carried out? What are the opportunities for training, recruitment and publication?

Discussants: Peter Matthews (National Museum of Ethnology), and Sachiko Kotani (National Museum of Ethnology), Christopher Isherwood (University of Tokyo).

First: Yoshinari Kobayashi (Engineering Consultant) "Work directions and research writing styles"

Second: Richard Bradford (Translator) "The work of a Tokyo language-service company: scope, recruitment, and prospects for development."

Third: Mathew Yakai (Journalist) "Tertiary education in Japan: student experiences (I)."

Fourth: Edna Temese (Translator) "Tertiary education in Japan: student experiences (II)."

Fifth: Jun Akamine (Nagoya City University) "Research writing and student training in Japanese universities."

SESSION FOUR: Summaries and planning

Moderator: Peter Matthews (National Museum of Ethnology).

All speakers, discussants, and audience members were invited to contribute.

After opening remarks by Christopher Isherwood, there was a general discussion of various issues raised during the previous three sessions. We also began planning for publication of the conference, and considered priorities for a possible future conference on research writing. A computer with internet connection was provided for website demonstrations.

学会名：「日本におけるリサーチ・ライティング－文化的、個人的、実践的な視点から－」

日 時：2003年3月15日（土）・16日（日）

日程・報告

1日目

開会の言葉：Peter MATTHEWS(国立民族学博物館)

基調講演： Jerry EADES(立命館アジア太平洋大学)

「理論的生産様式」

セッション1：調査研究の障害？

書きたいことはたくさんあるのに、時間がなさ過ぎるのでしょうか。多くの研究者にとって執筆活動は、研究生活のなかでもっとも時間を費やすものです。執筆は研究活動と出版の間に横たわるネックであるとはいえ、いったいどれほどの予算が、この作業に割り当てられているのでしょうか。同僚、指導教官、編集者、翻訳者は、どのような援助ができるのでしょうか。既存の結果サービスをいかに有効利用できるのでしょうか。学生や若い研究者たちは、どうすれば良い研究論文の著述者になれるのでしょうか。

討論者：Abhishek GOEL(Cactus Communications Pvt. Ltd.)

Pat MURRAY(人文社会学翻訳センター)

I. 原礼子 福野明子(国際基督教大学 博物館湯浅八郎記念館)

「国際基督教大学湯浅八郎記念館における出版活動」

II. Richard WEISBURD(筑波大学)

「今日の日本におけるリサーチ・ライティングとその改善の仕方」

III. 武田敏子 Michael KOLMAN Zeger KARSSSEN(Elsevier Japan)

「国際的出版社における編集サービス、そして日本人研究者達とのやりとり」

IV. Lynne E. RIGGS(人文社会学翻訳センター)

「出版成功のための進歩した指針の必要性」

セッション2：出版と消滅

「出版か消滅か」という言い回しは乱用されすぎています。少ない読者のわりに発表が多すぎるためでしょうか。今日の日本の大学院生は、仕事を得るために人脈を頼りすぎることはできず、研究を発表することが求められています。しかし出版物の量は仕事や予算を保証しませんし、その質も同様です。ですから、このタイトル「出版と消滅」なのです。道徳的見地からいえば、読者を重視した著述を優先させるべきで、読者を動かすためのさらなる努力が必要です。出版された数は少なくとも、より多くの読者をつかむことが好ましい目標でしょう。

討論者：Richard SADOWSKY (Society of Writers, Editors, and Translators)

Keith WILKINSON (日本翻訳者協会)

I. John McCREEY (The Word Works, Ltd.)

「出版と消滅：選択を考える」

II. Christopher ISHERWOOD (東京大学)

「文学（小説的著述）の水準は学究的著述の水準を上げることができるのか。

（文学的、学究的批判に関する評言）」

III. Paul FLINT (日本翻訳者協会)

「翻訳者の仕事と日本翻訳者協会」

2日目

セッション3：日本またはその他の地域における実際的経験

編集・翻訳・執筆作業はいかに援助を受け、遂行されるものなのか。訓練、募集、出版の機会とは？

討論者：Peter MATTHEWS 小谷幸子（国立民族学博物館）Christopher ISHERWOOD（東京大学）

I. 小林良生（エンジニアリングコンサルタント）

「作業の方向性とリサーチ・ライティングの文体」

II. Richard BRADFORD (翻訳者)

「東京言語サービス会社の仕事：活動範囲、募集、成長の展望」

III. Mathew YAKAI (ジャーナリスト)

「日本の第三次教育：生徒の体験（Ⅰ）」

IV. Edna TEMESE (翻訳者)

「日本の第三次教育：生徒の体験（Ⅱ）」

V. 赤嶺淳（名古屋市立大学）

「リサーチ・ライティングと日本の大学における学生の教育」

セッション4：要約と計画立案

司会者：Peter MATTHEWS(国立民族学博物館)

すべての講演者、討論者、聴衆の参加。

まとめのコメント：Christopher ISHERWOODによる総括講演の後、先の3つのセッションで取り上げられたさまざまな課題について、全般的な討論が行われた。本会議の講演集の出版が計画がすすんでおり、将来的にリサーチ・ライティングについての会議を開催するさいの優先課題についても熟考された。

Contributors and Participants

Contributors (* did not attend conference)

Akamine, Jun

Nagoya City University, Nagoya City, Aichi 467-8501, Japan (e-mail: akamine@hum.nagoya-cu.ac.jp). Associate Professor (maritime ethnology, Southeast Asian studies). Currently interested in conservation policies relevant to holothurians in Asia and the Pacific.

Baliga, Shreya*

Editor, Editage, Cactus Communications, India (www.editage.com, e-mail: shreya@editage.com). Editage provides English editing and educational services to researchers and companies around the world with a primary focus on Japan.

Bradford, Richard

Millennium House, 230-5 Kizuki Gion-cho, Nakahara-ku, Kawasaki 211-0033 (email: koshirich@hotmail.com). Japanese to English translation, coordination, editing, rewriting. Interests: shared living in the Tokyo region, surfing, popular culture, cross-cultural discourse, politics of hegemony, environment.

Eades, Jerry

College of Asia Pacific Studies, Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu, Oita-ken 874-8577, JAPAN (www.apu.ac.jp). Tel. (977) 78-1049, fax (977) 78-1123 (email: jse@apu.ac.jp). Professor. Research areas include anthropology and sociology of Africa and Asia, urban development, migration and ethnicity.

Flint, Paul

President, Japan Association of Translators (www.jat.org). Tel. (044) 952-0960 (e-mail: translator@honyaku-plus.com). Owner of Honyaku Plus, a translation company based in Kawasaki, Japan.

Fukuno, Akiko

International Christian University Hachiro Yuasa Memorial Museum, 10-2 Osawa 3-chome, Mitaka-shi, Tokyo Japan. Tel. (0422) 33-3340/3503, fax (0422) 33-3485. Curator, editor, translator. Interests: Japanese folk art, Japanese archaeology, cultural history.

Goel, Abhishek

Director, Editage, Cactus Communications, India (www.editage.com, e-mail: abhishek@editage.com). Editage provides English editing and educational services to researchers and companies around the world with a primary focus on Japan.

Goodman, Roger *

Nissan Professor of Modern Japanese Studies, University of Oxford (email: roger.goodman@nissan.ox.ac.uk). Research areas: Japanese education and social welfare.

Hara, Reiko

International Christian University Hachiro Yuasa Memorial Museum, 10-2 Osawa 3-chome, Mitaka-shi, Tokyo Japan. Tel. (0422) 33-3340/3503, fax (0422) 33-3485. Curator, editor, translator. Interests: Japanese folk art, Japanese archaeology, cultural history.

Isherwood, Christopher

Graduate School of Arts and Sciences, Tokyo University (email: crizish@hotmail.com). Translator (Japanese to English). Currently conducting research on literature and literary criticism in modern Japanese and Maori literature.

Kobayashi, Yoshinari

Kagawa Industrial Technology Center, Takamatsu. Engineering Consultant (PhD). Contact (residence): 2298-26, Yashima-nishimachi, Takamatsu, Kagawa, 761-0113. Tel./fax (087) 843-9722 (email: kobakazu@mail.netwave.or.jp). Interests: paper history and technology, and technology transfer to developing countries.

Kotani, Sachiko

School of Cultural Studies, The Graduate University for Advanced Studies. c/o National Museum of Ethnology, 10-1 Senri Expo Park, Suita City, Osaka, Japan 565-8511 (email: kosachiko@mrh.biglobe.ne.jp). Interests: intercultural practices and landscapes in relation to commodification of ethnicity, place-focused life histories, ethnic neighborhoods.

Matthews, Peter J.

National Museum of Ethnology, Suita City, Osaka 565-8511, Japan (www.minpaku.ac.jp). Researcher (ethnobotany, prehistory), in-house editor (English). Websites: www.researchcoop.co.nz, www.jomonjapan.org. Employer conducts research internationally and publishes monographs and journals in Japanese, English and other languages.

McCreery, John

Vice President, The Word Works, Tokyo. Tel./fax (044) 952-0960 (www.newcore.jp/TWWDI). Anthropologist and writer. Lecturer in the Graduate Program in Comparative Culture at Sophia University. Company founded in 1984 to supply fine translation, copywriting, research and consulting services to firms doing business in Japan, now operated in association with De-I Productions.

Murray, Patricia

c/o Center for Intercultural Communication, 1-1-1-609 Iwado-kita Komae-shi, Tokyo 201-0004. Editor/Translator (former executive editor, *The Japan Interpreter*).

Ohgai, Takeyoshi

Ryukoku University, Fushimi-ku, Kyoto, 612-8577 (e-mail: ohgait@biz.ryukoku.ac.jp, ohgait@hcn.zaq.ne.jp). Professor (international business). Interests: business communications, developing global managers.

Riggs, Lynne E.

Center for Intercultural Communication, 1-1-1-609 Iwado-kita Komac-shi, Tokyo 201-0004. Tel. (03) 3430-1780, fax (03) 3430-1740 (office e-mail: cic@gol.com). Translator, managing editor (*Monumenta Nipponica*), and member of the Society of Writers, Editors, and Translators.

Takeda, Toshiko

Editorial Service, Elsevier Japan KK, Higashi Azabu 1-chome Bldg 4F, 1-9-15 Higashi Azabu, Minato-ku, Tokyo 106-0044, Japan. Tel. (03) 5561-5032, fax (03) 5561-5045 (e-mail: t.takeda@elsevier.com).

Temese, Edna

Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu. Home address: P. O. Box 2585, Apia, Samoa (email: etemese@yahoo.com). Student. Work interests: computer services, translation (English-Japanese-Samoan), and documentary film.

Wilkinson, Keith S.

Tokyo, Japan (www.ispJapan.org, email: nzkiwi@mte.biglobe.ne.jp). Copywriter, Translator (J-E) and Engineer. Mainly producing marketing/PR/sales materials in-house in an industrial electronics company for 25 years. Microsoft MCSE, MCSA and Cisco CCNP, CCDP.

Weisburd, Richard S. J.

Institute of Biological Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba, Ibaraki 305-8572, Japan. Tel. (029) 853-4654, fax (029) 853-6614 (e-mail: weisburd@biol.tsukuba.ac.jp). Professor, teaching biology, oceanography, and scientific writing. In-house editing of journal articles. Research in environmental policy and ethics.

Weisburd, Nobuko

Egawa Language and Scientific Service (ELSS), 2-11-2-8-1 Matsushiro, Tsukuba, Ibaraki 305-0035, Japan. Tel. (029) 856-0713, fax (029) 850-2939, e-mail: elss@pro.email.ne.jp (www.asahi-net.or.jp/~bg3n-wsbr/elss/). Company President. Company offers substantive editing and translates technical and scientific articles in the Earth, environmental, and life sciences.

Yakai, Matthew

Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu, Japan (email: matheya0@apu.ac.jp). Student. Work interests: Journalism, International Relations.

Other conference participants

Akiyama, Kikumi

Japan Center for Area Studies, Osaka. Editor and publications management (e-mail: akiyamakikumi@hotmail.com). Currently free-lance editor and translator (English-Japanese, non-technical).

Atiwetin, Panida

Division of Applied Science for Functionality, Graduate School of Science and Technology, Kyoto Institute of Technology, Sakyo-ku, Kyoto 606-8585. Tel. (075) 724-7111.

Bomediano, Brian M.

Amenity Forest C-205, Oono 463-1, Sakurai City, Nara 633-0062, Japan (e-mail: ruribee@m3.kcn.ne.jp). Researcher (cultural critique, postcolonial discourse, philosophy), editor (English, Japan Center for Area Studies, Osaka), language instructor (English).

Feldman, Ofer

Naruto University of Education, Naruto, Tokushima 772-8502, Japan (e-mail: hatani@naruto-u.ac.jp). Associate Professor (political psychology). Teaches courses in political behavior and attitudes, social psychology, and communication. Author and editor of numerous journal articles, book chapters and books (Japanese and English).

Karssen, Zeger

Publisher, Elsevier B.V., Amsterdam, The Netherlands.

Kolman, Michiel

Publishing Director, Elsevier B.V., Amsterdam, The Netherlands.

Konishi, Shuko

Publications Office, National Museum of Ethnology, Osaka. Current address: Setsuryo Junior High School, Ibaraki City, Osaka, Japan. English teacher in charge of cross-cultural activity and overseas study programs.

Sadowsky, Richard

Free-lance translator and writer, 98-39 Tsunokawa, Tsushi, Goshiki-cho Tsuna-gun, Hyogo-ken 656-1341, Japan. Member of the Society of Writers, Editors and Translators, and Japan Association of Translators.

Smith, Mark

Senior Consultant, InterLingual, 181-2 Shinjo, Higashi Osaka, Osaka 578-0963. Tel./fax (06) 4309-0585 (email: mspsmith@gol.com). Writing consultant, editor, and translator.

Senri Ethnological Reports (Recent Issues)

- No.48 *The Eternal Cycle: Ecology and Worldview of the Reindeer Herders of Northern Kamchatka* (2004; Takashi Irimoto; in English)
- No.47 *Music: the Cultural Context* (2003; Robert Garfias; in English)
- No.46 *An Anthropological Study of Indigenous Use and Management of Marine Resources* (2003; ed. Nobuhiro Kishigami; in Japanese)
- No.45 北部カメルーン・フルベ族の民間説話—アーマーワ地方とベヌエ地方の話 (2003; 江口一久; in Japanese and Fulfulde language)
- No.44 *2002 Seoul Style: Evaluation of the Study and Exhibition* (2003; eds. Toshio Asakura, Fumiki Hayashi, Hyangle Kim; in Japanese and Korean)
- No.43 *Popular Tradition: Art and Religion in Northern Peru* (2003; eds. Luis Millones, Hiroyasu Tomoeda, Tatsuhiko Fujii; in Spanish)
- No.42 *The Twentieth Century in Mongolia: Interviews About the Way to Socialism* (2003; ed. I. Lkhagvasuren; in Mongolian)
- No.41 *The Twentieth Century in Mongolia: Interviews About the Way to Socialism* (2003; ed. Yuki Konagaya; in Japanese)
- No.40 *A Catalogue of the Bon Kanjur* (Bon Studies 8; 2003; ed. Dan Martin; in English and Tibetan)
- No.39 *Current Status and Issues of Studies in Endangered Languages* (2003; ed. Osamu Sakiyama; in Japanese)
- No.38 *A Survey of Bonpo Monasteries and Temples in Tibet and the Himalaya* (Bon Studies 7; 2003; eds. Samten G. Karmay, Yasuhiko Nagano; in English)
- No.37 *Tourism and Gender* (2003; eds. Shuzo Ishimori, Emiko Yasufuku; in Japanese)
- No.36 *Synthetic Materials and the Museum Object* (2003; ed. Naoko Sonoda; in Japanese)
- No.35 *Using Multimedia in Ethnology* (2003; ed. Yasuhiro Omori; in Japanese)
- No.34 *Hunter-Gatherer Societies as Open Systems* (2002; ed. Shiro Sasaki; in Japanese)
- No.33 *New Perspectives on the Study of Prehistoric Hunter-Gatherer Cultures* (2002; ed. Shiro Sasaki; in Japanese)

[国立民族学博物館刊行物審査委員会]

松園万亀雄 館長
長野泰彦 企画調整官
田村克己 民族社会研究部
大森康宏 民族文化研究部
石森秀三 博物館民族学研究部
藤井龍彦 先端民族学研究部
杉本良男 民族学研究開発センター (出版委員長)
押川文字 地域研究企画交流センター

平成16年2月27日発行

非売品

国立民族学博物館調査報告 49

編者 Peter J. Matthews
赤嶺 淳

発行 国立民族学博物館
〒565-8511 吹田市千里万博公園10-1
TEL. 06(6876)2151(代表)

印刷 株式会社 遊文舎
〒532-0012 大阪市淀川区木川東4-17-31
TEL. 06(6304)9325

ISSN 1340-6787
ISBN 4-901906-24-0
C3037

Senri Ethnological Reports

49

ISSN 1340-6787
ISBN 4-901906-24-0
C3037